

# 朝倉で知る、自分らしい人生の見つけ方

インタビュー 田村一義さん、京子さん

豊かな自然に農作物、清涼な水、人々のあたたかさ。朝倉を旅していると、あるひとつの想いが生まれてくる。この土地で暮らす、ということだ。近年、朝倉エリアには、福岡市内をはじめ、関西関東などからも多くの世帯が転入する例が増えてきている。彼らが、新しい生活の場としてこの土地にどんな魅力を感じているのか。そこに、大人旅のヒントもまた眠っているかもしれない。注目のエリア、美奈宜の杜に転入してきたあるご夫婦にお話を伺った。



お話しいただいた田村一義さん・京子さんに抱かれる愛犬たち

美奈宜の杜の一角、裏手に山や小川を臨む静かな場所に、田村さんご夫婦が新居を構えたのは、今年の三月。それまでは、福岡市内のベッドタウンでマンション暮らしを続けていた。ここでの生活に慣れてくると、新しい発見が毎日のように生まれるのだと田村一義さんは楽しげに話してくれる。



静かな環境が魅力的な田村さん宅

朝、カーテン越しの太陽の光と野鳥のさえずりで目が覚めるんです。日当りの良い地形のおかげでしょうね。そんな爽やかな朝は、海外のリゾート地でのみ味わえるものだと思っていました。健康的なライフスタイルを送る条件が、この地域には揃っているんですよ。

田村さんはかつて、共同住宅を含めた街づくりや高齢者専用マンションのプランニングなどを行う会社に勤務していた。現在、年齢は五十歳。日本中がバブルマネーに沸いた八〇年代、現場の第一線でがむしやりに仕事をしてきた世代のひとつだ。バブル崩壊後も、独自の視点で人と暮らしとの快適な関係を追求し続け、プランナー業界を牽引し続けたという、まさに仕事を中心の人生。そんな中、田村さんの心のうちにはひとつの夢が生まれていた。田舎暮らしがしたいとずっと思っていたんですよ。好きな仕事は思いきりやったし、バブル時代には経済の波にも翻弄された笑。走り続けてきた人生の中で、ふとその踊り場



家族の一員である愛犬のルルちゃんとリックくんも、毎日元気に自然の中で駆け回っている

にさしかかった時、自分らしく生きる、ということを考え始めたのです。土や緑の匂いが残る場所で、妻と二人のんびりと暮らしたいと思うようになりました。でも、定年を待ってから新天地を探して、となると、肝心の自分の体力が不安になってきますから、やはり元気なうちがいい。妻とも相談して、色んな場所を探しましたよ。九州でいえば湯布院や九重、他にも海外のリゾート地など。しかし、隠居生活を送るといふより、まだ仕事を続けたかったのです。都市部へのアクセスやインターネット環境などを考えると、リゾート地への移住は不便なことが多すぎることが分かったんです。そんな折り、これまでも観光で訪れていた朝

倉市にある 美奈宜の杜のことを知りました。今も福岡市内へは週三回仕事で出ていますが、渋滞もなくスムーズに動くことができますし、オフの日には自然に囲まれた中で生活ができる。自分のライフスタイルに合わせて暮らしを選ぶという自由が、ここにはあると感じています。田舎暮らし、というと自給自足のような生活スタイルも選択のひとつだが、長年都会暮らしをしてきた田村さん夫婦のような方たちにとって、実際に実現するのは難しい。適度に田舎、適度に都会のライフスタイルを自由に行き来することができるのが、朝倉地域の大きな魅力のひとつなのだ。都市部から四十五分の好アクセスで、気軽にショートトリップする非日常。それは、大人の旅にとっても重要なキーワードとなるだろう。

都会では、新鮮な野菜や果物を買おうと思ったら少し高くなるのが普通。でも、ここだったら何処の売り場に行っても収穫したばかりの「朝倉産」の野菜が格安で手に入るんですもの、主婦としては嬉しいですよ。旬の素材や自然の風景から四季の移ろいを感じることができる。都会の派手さとは異なる、朝倉ならではの豊かさに触れながら、健康的に毎日を過ごしているんですよ。



庭には、一義さん手作りの家庭菜園も。ガーデニングは夫婦揃って楽しむ新たな趣味の時間

奥さまの京子さんもすっかり朝倉ライフがお気に入りの様子。さらに、美奈宜の杜では、各地から移住しセカンドライフを楽しむ人達による住民参加のコミュニティ活動も盛んに行われている。自分らしい人生のセカンドステージを、この地で見つけてみてはいかがだろうか？

